

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表: R6年 2月 26日

事業所名 ナチュラルこどもハウス東中浜店

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	4	1	・運動サーキット等も行えており、十分なスペースで療育を行うことができている。 ・児童発達支援が活動しているときは、パーティションなどで空間を仕切っている。一方で宿題中に「声が聞こえて集中できない」といった状況になることも少なくとも、学習の場の提供に難しさを感じている。	
	2	職員の配置数は適切である	3	2	・今後も専門職・経験者・有資格者の配置を検討していく。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	4	1	・玄関に大きな段差が一段あるが、児童が活動する空間には物を置かないように配慮している。	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	5	0	・朝のミーティングや引継ぎノートで全職員が情報を共有できるようにしている。 ・いつでも相談し合える環境を作っている。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5	0	・年度末にアンケートを実施し、今後の支援につなげられるようにしている。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5	0	・アンケートの集計結果をHPに掲載している。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	5	0	・指導があった場合はすぐに改善している。 ・第三者からの評価は現在検討中である。	
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5	0	・外部研修や社内研修を受ける機会があり、希望すれば外部の研修を受けることができる。	
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	5	0	・児童一人ひとりに合った支援が行えるよう、定期的に会議を行い計画を作成している。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5	0	・資料を参考に事業所で作成したアセスメント様式を活用している。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	5	0	・日々のレクリエーション案や行事企画等を立て、細かな設定や一つずつの活動に対する振り返りを行うことで、次に繋げられるようにしている。 ・職員で役割を分担し、チームで支援を行っている。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5	0		
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	5	0		
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	5	0		
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	5	0	・朝のミーティングで活動のねらいや配置・職員の動きを含めた打ち合わせを行うことができている。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5	0	・担当者がレクリエーション案に活動の振り返りを記入し、ファイリングすることでいつでも見返すことができるようにしている。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5	0		
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	5	0	・モニタリング期間内に評価・見直しを行っている。	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	5	0	・戸外遊びや製作活動などを組み合わせながら楽しんで活動できるように工夫している。		

関係機関や保護者との連携	20	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5	0	・主に児童発達支援管理責任者・担当職員・管理者などが出席している。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	5	0	・送迎児童の学校では積極的に行っている。 ・保護者や園・学校からの希望があれば書面で情報共有を行うこともある。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	0	5	・現在、対象児童がいないが関係機関との連携は必要であると認識している。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	4	1	・保護者や学校からの希望があれば書面で情報共有を行うこともある。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障がい福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	0	5	
	25	児童発達支援センターや発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	1	4	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0	5	・機会があれば行いたいと考えている。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	1	4	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5	0	・連絡帳を通して療育の内容や様子を伝えることができている。 ・療育後に必ず保護者と話す機会を設けている。
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	5	0	・必要性は感じている。 ・全児童を対象には実施できていないが、必要がある場合は悩みに寄り添う支援ができるよう努めている。	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5	0	・見学・契約時に書面と口頭で説明ができている。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5	0	・保護者からの相談はもちろん、支援の方法に関してこちらから相談する等、日々連携して支援が行えるようにしている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	3	2	・日程調整の関係で今年度は開催することができなかったが、次年度はそういった機会を作れるように検討する。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	5	0	・相談・申し入れがあった際は責任者、担当者が面談を行い相談内容に応じて、回答・対応ができるように努めている。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	5	0	・SNSで発信している。
	35	個人情報に十分注意している	5	0	・職員にその都度取り扱いに気を付けるよう周知し、厳重に管理している。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5	0	・写真や絵カードを用いて視覚的な支援を行っている。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	1	4	・今後検討し、地域とのつながりを作っていきたいと考えている。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	5	0	<ul style="list-style-type: none"> ・各種マニュアルを策定し、また、職員全体でマニュアルに沿ったシミュレーション・訓練を行っている。 ・児童を含め、月に一度避難訓練を実施している。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5	0	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5	0	<ul style="list-style-type: none"> ・関連資料の読み合わせや、外部研修に参加し、全職員が共通意識を持つよう努めている。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	3	2	<ul style="list-style-type: none"> ・現在対象児童がいない。今後、対象児童が利用する際はその体制がとれるようにしていく。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	1	4	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	5	0	